

# 高校3年生への選挙についてのアンケートの概要

平成29年4月  
選挙管理委員会事務局

## 1 目的

「18歳選挙権」が初めて適用された参院選では、18歳・19歳の投票率が相対的に高かったため、その盛り上がりを一過性のものとしないう、県内の高校3年生の実情を把握し、今後の啓発の参考とする。

## 2 調査方法

県内の公立高等学校（全43校）の3年生、各学校1クラス程度（50人以内）にアンケートを実施し、全校の1,633人が回答

## 3 調査結果（主なもの）

### （1）平成28年7月10日執行の参院選について

- 参院選時に選挙権があった生徒は29.8%
- そのうち、投票に行った生徒は82.3%  
（県内の18歳全体の投票率52.06%を大きく上回る）
- ※ 「18歳全体」には、進学等で県外に転出し、住民票を移していない者も含まれる。
  - ・ 家族と共に投票に行った割合は88.6%
  - ・ 家族が投票に行かない場合に投票に行った割合は15.4%

### （2）選挙管理委員会が実施する出前講座について

- 出前講座を受講した生徒が投票に行った割合は84.6%  
（受講したことがない生徒が投票に行った割合80.8%より3.8ポイント高い）
- ※ 出前講座は、県と市町村の選挙管理委員会による取組みで、公立高校全43校中、35校（81.4%）で実施
  - ・ 受講したことで、投票に行ってもいいと思った生徒は44.4%  
（もともと行くつもりだった生徒43.3%を含めると87.7%が投票に前向き）

### （3）不在者投票制度と期日前投票制度について

- 不在者投票制度の内容を詳しく知らない生徒の割合は82.7%
- ・ 期日前投票制度の内容を知っている生徒の割合は57.2%

## 4 今後の活用

- 出前講座の実施により、投票に前向きとなる生徒が増えていることから、引き続き市町村選挙管理委員会や教育委員会、学校等と連携し、高校生への主権者教育や選挙啓発を展開していく。
- ・ 住民票の異動や、期日前投票制度・不在者投票制度の周知・啓発については、引き続き実施していく。
- ・ 家族の投票が子どもの投票行動に影響を与えることなど、いくつかの課題が見えてきたため、今後、対応について検討していく必要がある。